

令和4年度
事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
み ど り が 丘 保 育 園

令和4年度みどりが丘保育園事業報告

園目標

- 1) 保育理念・保育方針・保育目標を理解する
 - ・子どもが意欲を持って活動できる環境構成の工夫をする。
 - ・それぞれの職種が子どもや保護者とそれぞれの関わり方を理解する。
- 2) 年齢に応じた援助に必要な知識を理解し技術を身につける
 - ・子どもの発達段階の理解(一人ひとりの子どもの理解)
 - ・共感関係を築く技術
 - ・遊びを総合的に発展し、援助していく技術
 - ・10の姿の技術
 - ・食育・衛生・発達・療育など分野別における専門知識の向上
- 3) 社会人として適切な振る舞いや言葉づかいを行う
 - ・先輩や同僚のアドバイスを素直に受け積極的に学ぼうとする。
 - ・保育園の中で互いに助け合う気持ちを持ち協力する。
 - ・個々がそれぞれの立場を理解し業務にあたる。

園児数

0歳児	1歳児 2歳児	3歳児	4歳児 5歳児	計
14名	59名	34名	66名	173名

職員配置

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	子育て	一時保育	フリー
保育士	5名	5名	5名	3名	2名	2名	1名	2名	1名
保育補助			1名						1名

栄養士	看護師	調理師	調理補助	事務	用務	育休
1名	1名	2名	2名	2名	0名	6名

各種会議

開催日	会議名	内容
毎週金曜日	週案会議	翌週日程 行事等連絡事項 その他特記事項共有
第1水曜日	療育保健衛生委員会	気になる子についての情報共有
第2水曜日	事故虐待防止委員会	ヒヤリハット、事故報告、マルチトメント実態共有
第3水曜日	給食会議	嗜好調査、食育情報共有
第4水曜日	防災会議	避難訓練反省
随時	チーフ会議	運営ミーティング 緊急事項対策会議

園内研修

開催月	題材	内容
5月	特別支援保育 嘔吐処理	臨床発達心理士橋場隆氏によるリモート講習 嘔吐処理を様々なケースから実践講習
6月	園の職員として AED	掲げた個人目標について自らの活動をプレゼンする AEDの使用法を様々なケースから実践講習
7月	理念や目標を意識した 保育・環境設定	理念を知り、理念に沿った保育を考え行動に移すための基本的な知識を学ぶ 保育実践、環境設定を理念に基づいた視点で考える。
8月		
9月		
10月	他クラスの保育参観	他クラスの保育を実際に体験する。
11月	意見交換	体験を踏まえ、意見交換を行う。
12月	保育実践	個々にシアター系製作などを持ち寄り、ねらいや効果などをプレゼンする。
1月	リミック・わらべうた等	
2月	園内研修反省	園内研修で得たものをどう活かしているかなど、振り返りと反省を行う。

園外研修

7月	新社会人研修会	社会人と学生の違い 保育園で働くという事 11月フォローアップ研修
	給食施設衛星講習会	給食施設の衛生管理について(オンライン講習)
	キャリアアップ研修	マネジメント
	アレルギー対策研修	小児アトピー性皮膚炎・小児気管支喘息研修
8月	キャリアアップ研修	乳児保育
	発達障害の子どもの育ち	幼児期の切れ目ない支援の構築に向けた研修
	キャリアアップ研修	マネジメント
	栄養情報交換会	乳幼児の食事状況と課題について
	給食施設研修会	おやつを含めた栄養管理の重要性について
9月	キャリアアップ研修	乳児保育
	キャリアアップ研修	幼児保育
	キャリアアップ研修	マネジメント
	地域子育て支援研修会	地域子育て支援拠点施設担当者事例研修
	障害児保育研修会	講義「障害児保育についてどう実践するか」実践発表及び意見交換
12月	キャリアアップ研修	障害児保育
2月	保育士新採用セミナー	新卒採用においておさえるべきポイント

- ・園内研修については、グループ参加型スタイルを継続。令和4年度は年間を通して一貫性を出し、保育理念の意識付けを大筋にカリキュラムを作成した。より多くの職員が参加しやすい形にと工夫もみられた。職員同士が日ごろの業務から見えてくる理念や指針との関連性に目を向け意見交換し、改善すべき点を洗い出していくことができた。お互いに刺激し合い認め合う事でスキル向上に向けて重要な時間と空間を構築できたのではないだろうか。
- ・園外研修については、千葉県保育協議会主催の研修会においてオンライン形式も普及し始め、参加する機会が昨年度より増えた。キャリアアップ研修においてもeラーニング形式の導入が定着し、業務形態に合わせ受講することができた。
- ・次年度以降、外部研修も更に受講しやすい状況になると考えられる。知識向上の機会として積極的に受講できる環境を構築する。

組織体制

- ・各事業所・各クラスでのミーティングを遂行し、問題点、改善点の把握から実行改善までを迅速に対応。
また、ミーティングにおいては、子ども達の個々の発達状況や気づきを職員間で意見しやすい場として設け、密な情報共有からの保育のステップアップへと繋げる。
- ・他部署間の報・連・相の徹底。
- ・働きやすい職場環境の実現に向けて業務の効率化を計画的に進めていく。(進行中)
- ・園児・職員の健康状態を組織的に把握し、感染症への迅速な対応を心掛け、他機関との連携が円滑に進むよう努力した。
- ・各分野別リーダーの年間目標を明確化することでサブリーダー、その他職員が共通理解を図り業務分担が適切に行えた。
- ・チーフ間の連携強化を強め、組織体制の充実を図る。
- ・人事考課を取り入れ、個人が園の方向性を把握した上で、やるべき事を明確化、評価につなげた。
- ・各委員会のリーダーが委員会やミーティングを通して参加者の中心となりリーダーシップを図り、専門知識の向上に努めた。

年間行事

日程	行事名	内容
4月1日	入園のお祝い	各クラス分かれてのクラス説明会。
5月9日～	保育参加	各クラスフリー参観形式 1日2～3名限定
5月中旬	春の遠足	3・4・5歳児対象 芋苗植え・公園遠足等
6月2日	からだのがっこう	5歳児対象 健康増進活動
6月下旬	内科・歯科健診	前期
6月21日～24日	保護者懇談会	0・1・2歳児クラス対象。各クラス2部制にて開催。
7月11～15日	夏まつり	遊戯室を会場とし、クラスごとに日にちを分けて開催。
7月21日	プール開き	プールは中止。水遊びごっこを行う。
9月1日	引き渡し訓練	保護者参加型避難訓練
9月下旬	親子運動会	園庭にてクラス別で開催
10月上旬		保護者一家族1名制限
10月中旬	秋の遠足	3・4・5歳児対象 芋ほり・公園バス遠足等
10月下旬	内科検診	後期
11月19日	卒園遠足(5歳児)	千葉市動物公園。感染症を踏まえ、3月から11月に変更
12月上旬～	発表会(3・4・5歳児)	各クラス2部制に分け、保護者各家庭2名参加。
12月24日	クリスマス会	クラスごとにサンタと記念撮影。プレゼント開封
1月7日	お正月お楽しみ会	日本のお正月の文化に触れながら、1年の健やかな成長と健康を祈願する。
2月3日	節分	年齢に合わせた行事内容。豆の使用にも留意。
2月中旬	歯科検診	後期
3月3日	ひなまつり	年齢に合わせた行事内容。
3月9日	お別れ会	4歳児から代表者を選抜し、5歳児にお礼の言葉やプレゼントを渡す。職員のビデオレター上映。
3月20日	卒園式	卒園証書授与。 会場はランチルーム・あじさい組 保護者1家族2名参加

- ・昨年度に引き続き、各行事は園全体一斉に行う形式は行わず、クラスや年齢ごとに分かれて行う形式が主流。保護者参加や地域参加も引き続き制限を設け、感染症対策に留意した内容となっている。

- ・季節の行事では、クラスごとに絵本などを用いて行事の由来や意味あいなどを子ども達が興味を抱くよう試行錯誤し、製作や遊びの発展につなげていく。
- ・実物を目にし、触れる喜びを感じてもらえるよう、芋苗植え・芋ほり実体験や本物のこいのぼり、雛人形などを園内に展示する。
- ・からだのがっこうにおいても感染症対策に留意し、オンラインを用いた内容へと変化している。5歳児の身体のチェックでは、手の握力と足指の握力を年に2回測定。数値から子どもの身体の状態を分析し、改善に向けての運動遊びなどを保育園での生活に無理なく取り入れていく。
巧技台や跳び箱を使用し、楽しく遊びながら手足の握る力や骨盤の可動域などに刺激を与えていくことで将来怪我をしにくい身体づくりを目指していく。
- ・発表会は、各クラス2グループに分け、1日2部入れ替え制とし密状態を避け開催。クラスごとに子ども達と内容を決め、歌やダンス、劇などを発表する。友達同士話し合いの場を設け、意見し合い、辛い時は励まし合い、ひとつの目標に向けて協力し合うなど、子ども達の共生力を発表会という行事を通して育てていく。
- ・卒園式は、ランチルームと3歳児クラスを使用し、日曜日に開催する。保護者各家庭2名参加となり、1名は立ち見での参加となる。

新人教育

新卒者1名 中途採用3名 契約職員1名 入職

- ・新入社員オリエンテーション
- ・新人正規職員メンター配置(保育士ノート記録 所見 指導)
- ・中途面談

実習受け入れ

- ・和洋女子大学 4年次生 1名 保育実習Ⅱ 6月6日～6月18日(12日間)
- ・植草学園大学 3年次生 1名 保育実習Ⅱ 5月16日～5月27日(10日間)
- ・植草学園大学 2年次生 2名 保育実習Ⅰ 8月18日～8月31日(10日間)
- ・城西国際大学 2年次生 1名 保育実習Ⅰ 10月17日～10月29日(12日間)
- ・千葉明德短期大学 1年次生 1名 保育実習Ⅰ 2月14日～2月28日(12日間)
- ・東海大学 1年次生 1名 ショートインターンシップ 8月25日～8月26日(2日間)

ボランティア受入・職場体験・町探検

- ・大網小学校2年生町探検、受入れ
プロジェクターを使用し、保育園の様子を写真で紹介。みどりが丘保育園を卒園した児童も多く、保育園の雰囲気懐かしむ姿がみられた。地域のつながりを感じる一コマであったし、この経験を機に保育士を目指す子が増えると嬉しい限り。

業務委託

日程	内容	委託先
6月7日 11月29日	内科検診	千葉東こどもクリニック(松崎 真由美 先生)
6月23日 6月30日 12月1日 12月8日	歯科検診	大網歯科診療所(和田 美昭 先生)
5月17日 10月14日	芋苗植え 芋ほり	内山農園
5月25日 5月31日 2月15日 2月20日 2月27日	歯みがき教室	大網白里市健康増進課歯科衛生士
6月2日 2月9日	からだのがっこう	健康増進推進団体「tocoS」

つばみ組(0歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・保育者に気持ちや欲求を受け止めてもらい、安心した環境のもと過ごす。
- ・感覚器官を発達させ(見る・聞く・触れるなど)様々な遊びを通し感性を育てる。
- ・生活や遊びの中で模倣する楽しさを知る。

クラス目標

- ・人への基本的信頼を高め育てるよう温かみのある触れ合いや、ゆったりとした関わりを大切にしていく。
- ・一人ひとりの子どもの発達を理解し、個々に合わせて丁寧な保育を行う。
- ・社会人としての意識を持ち、互いに刺激し合い共に学び、保育士としての知識を深める。

活動報告

○室内遊び

- ・音の鳴る玩具 ・ままごと ・ブロック ・お絵描き ・シール ・絵本 ・ パズル
- ・ポットン落とし 等

○戸外遊び

- ・固定遊具 ・砂遊び ・ボール ・かけっこ 等

○その他

- ・感触遊び(絵の具、小麦粉粘土、スライム) ・巧技台 ・水遊び ・散歩 等

〈行事〉

- ・保育参観 ・夏まつり ・親子ふれあい運動会 ・消防訓練
- ・クリスマス ・節分 ・ひな祭り ・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診 ・歯科検診 等

反省

- ・こまめに家庭と連携を取りながら、子ども達一人ひとりの発達状況を理解し、個々にあった声かけや関わり、援助をすることができた。また排泄や着替え、午睡時など一人ひとりとのスキンシップを多くとることを大切にすることができた。
- ・季節や子どもたちの発達に合わせて室内の環境を変え、季節感が感じられる環境を作ることができた。
- ・保育しやすい雰囲気や関係性を心掛けることができ、職員が落ち着いて保育できる環境だった。

わかば組・ふたば組(1歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・意欲の高まりを大切にし、やってみたいという気持ちを育てる。
- ・基本的な生活習慣の確立に向けての過程を大切にする。
- ・自己主張と気持ちの切り替えを学ぶ。
- ・トラブルを通して友達との関わり方を学ぶ。

クラス目標

- ・安心できる環境の中で、一人ひとりが簡単な身の回りの事に興味関心が持てるように保育する。
- ・自我の芽生えに寄り添い、友達との関わりを仲立ちして伝え合うことの大切さを知らせる。
- ・社会人として又、保育のプロとしての意識を持ち子どもたちや保護者職員への丁寧で適切な関わりを心掛ける。

活動報告

○室内遊び

- ・ままごと、パズル、積み木、お絵描き、電車、車、ボールプール、人形遊び、ごっこ遊び等

○戸外遊び

- ・固定遊具(すべり台・アスレチック・三角山) ボール遊び、砂遊び、ままごと、等

○その他

- ・感触遊び(絵の具あそび ・小麦粉粘土) ・散歩
- ・わらべうた、ふれあい遊びでのスキンシップをとる
- ・季節に合わせて自然物を使った遊びをする(水遊び、氷遊び)等

〈行事〉

- ・保育参観 ・夏まつり ・親子ふれあい運動会 ・消防訓練 クリスマス ・節分
- ・ひな祭り・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診 ・歯科検診 等

反省

・一人ひとりの成長や発達を理解し、甘えの要求をしっかりと受け止め関わることを心がけた。

継続の積み重ねをすることで信頼関係が築け伸び伸びと過ごせるようになった。また、自己主張も強くなり自分の意思を仕草や表情、言葉等でストレートに出す姿が見られるようになった。

安心できる存在となり、環境を作れたのではないかと思う。

・子どもたちの興味関心に気づき、遊びを展開することができた。また、行事にも繋げられ、工夫することができた。

子どもたちにとって保育園が安心できる楽しい場所になったと思う。

ちゅうりっぷ組(2歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・自分のことは自分でしようという気持ちを育てる。
- ・言葉で伝えたり、言葉でやり取りしたりしながら、語彙を増やす。
- ・いろいろな遊びを楽しみ、指先、手先、全身を使う。

クラス目標

- ・安心して表現したり、意欲を持ったりできるような関係、環境作りをする。
- ・子どもの遊びや興味関心を広げたり深めたりする。
- ・保護者だけでなく職員間でも信頼関係を築き、共に子どもの育ちを考えられるようにする。

活動報告

○室内遊び

・ままごと ・ブロック ・お絵描き ・シール ・絵本 ・ミニカー ・粘土 等

○戸外遊び

・固定遊具 ・砂遊び ・三輪車 ・虫探し ・ボール ・かけっこ ・しっぽとり 等

○その他

・絵の具 ・小麦粉粘土 ・片栗粉遊び ・寒天遊び ・巧技台 ・水遊び ・散歩 等

〈行事〉

・夏まつり ・親子ふれあい運動会 ・パン屋さんごっこ ・クリスマス ・節分
・ひな祭り ・身体測定 ・避難訓練 ・内科検診 ・歯科検診 等

反省

・一人ひとりに合わせた言葉かけや手助けを心掛けてきたところ、それぞれが自分の事は自分でしようという意欲を持つようになり、排泄や着替え、登降園時の支度等を行なえるようになった。

・年度途中で担任が変わったり減ったりしたことで、子ども達や保護者の方が不安にならないよう、子ども達や保護者とのコミュニケーションをより多くとるようにしたり、職員間の連携を密にするようにした。

・コロナ禍で予定していたものの今年度はできなかった行事や遊びを次年度以降はできるようにすると良いと思う。

幼児組(3・4・5歳児クラス)事業報告

基本方針

- ・いろいろな事に『やってみよう』と挑戦する。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、生き生きと生活する。(3歳児)
- ・言葉への関心や興味を高めて相手への理解や言葉の表現力を養う。(4歳児)
- ・就学に向けて団体への行動や社会生活に必要な事柄を身につける。(5歳児)

クラス目標

- ・職員と連携を取りながら『生きる力』を考える。
- ・10の姿を意識し、子どもの発達に応じた関わりをしていく。
- ・保護者と子どもの成長を共に喜び、寄り添える存在となれるように努める。

活動報告

○室内遊び

・ままごと ・ブロック ・粘土 ・パズル ・絵本 ・お絵描き ・ぬりえ ・製作 等

○戸外遊び

・固定遊具・砂遊び・三輪車・ボール(サッカー・ドッチボール)・鬼ごっこ・縄遊び
・自然物を使って遊ぶ(草花・木の実・小石・虫探し 等) 等

○その他

・絵の具 ・水遊び ・散歩 ・運動遊び(巧技台・バランスストーン・跳び箱・鉄棒:逆上がりや地球回り 等)・
季節の歌 等

○行事

・遠足・保育参加・夏まつり・親子運動会・発表会・食育活動(キャンプごっこ・お別れクッキング等)・クリスマス・
節分・ひな祭り・第3週目身体測定・月1回避難訓練・内科検診 ・歯科検診 ・からだの学校(5歳児のみ)

反省

- ・水遊びでは大きいプールを購入して頂き、幼児で水遊びを楽しめた。泡・色水・寒天などといったブースを作り夏
ならではの遊びを楽しめた。情勢が更によくなれば以前のような大型プールが利用できると良い。
- ・ひまわり組が年度途中で担任が変わったので子ども達や保護者の方が不安にならないようにしていき、職員間
の連携を意識し学年で協力し合うことができた。
- ・やってみたい遊びを通していろいろ挑戦することができた。又、異年齢交流を自然に行っていて良い刺激となり年
下の子への思いやりが引き継がれているようだ。子ども達の成長を保護者や職員で共有することができた。
- ・コロナ禍で少しずつ緩和されていき、その時々で感染症対策をしながら各行事を楽しめることができ良かった。

「特別保育」事業報告

事業方針

・子育て家庭の心の拠り所になるような場を提供することで、子育て支援・児童福祉の目的を図る。

事業目標

- ・子育て家庭の気持ちに寄り添い、親子が安心して過ごせる関係・環境作りをする。
- ・常に向上心を持ち、専門職としての意識や知識を高め、与えられた職務を果たす。
- ・互いの業務や立場を理解した上で、連携・協力し合う。

～子育て支援センター～

実績報告

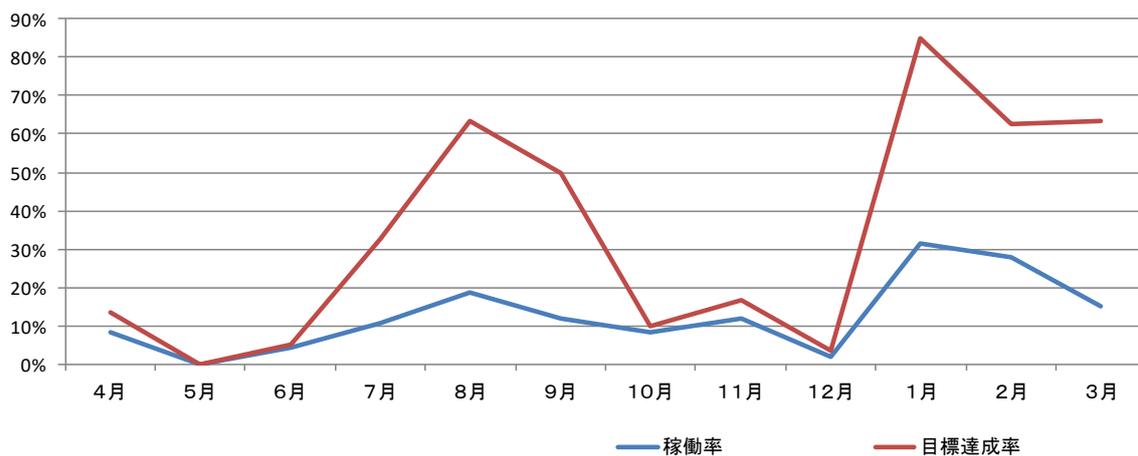
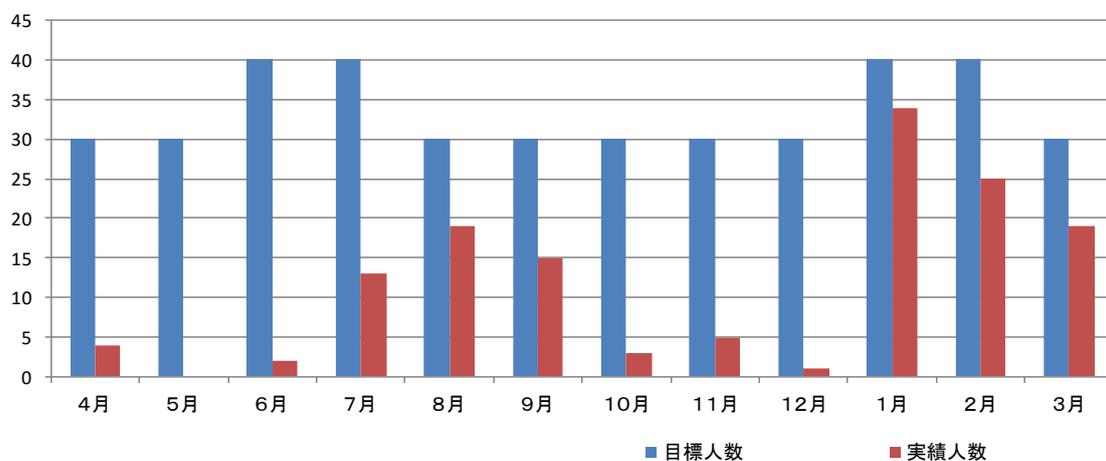
- ・行事:お月見、ハロウィン、節分、ひなまつり、誕生会等期間を長く設定し、予約を分散できるようにした。
- ・身体測定:特定の日を設定せず、随時行った。
- ・市内の子育て家庭へのポスティングと、近隣の商業施設や小児科等にポスターの掲示を行った。
- ・コロナ対策による休園や再開の情報を「つくしんぼだより」やホームページに掲載し、利用者の目に留まるよう工夫
した。
- ・6月と11月の市内の子育て支援センターとの交流会を通して、意見交換を行った。
- ・資格を取得している職員に協力してもらい、ベビーマッサージ(有料イベント¥200)を行った。

反省

- ・ポスターやパンフレットを掲示し、新規利用者が増えつつある時期に職員の入れ替わりとクローズ期間が続き、利
用者の足が遠のいてしまった。
- ・予約システムの見直しと子育て支援センターの存在を知ってもらえるよう、宣伝や呼び込みを引き続き行い、盛り
上げていけるようにしていきたい。

子育て支援センター年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	30	30	40	40	30	30	30	30	30	40	40	30	400
稼働日数(日)	8	0	8	20	17	21	6	7	9	18	15	21	150
定員(人)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
実績人数	4	0	2	13	19	15	3	5	1	34	25	19	140
稼働率	8%	0%	4%	11%	19%	12%	8%	12%	2%	31%	28%	15%	16%
目標達成率	13%	0%	5%	33%	63%	50%	10%	17%	3%	85%	63%	63%	35%



～一時保育～

実績報告

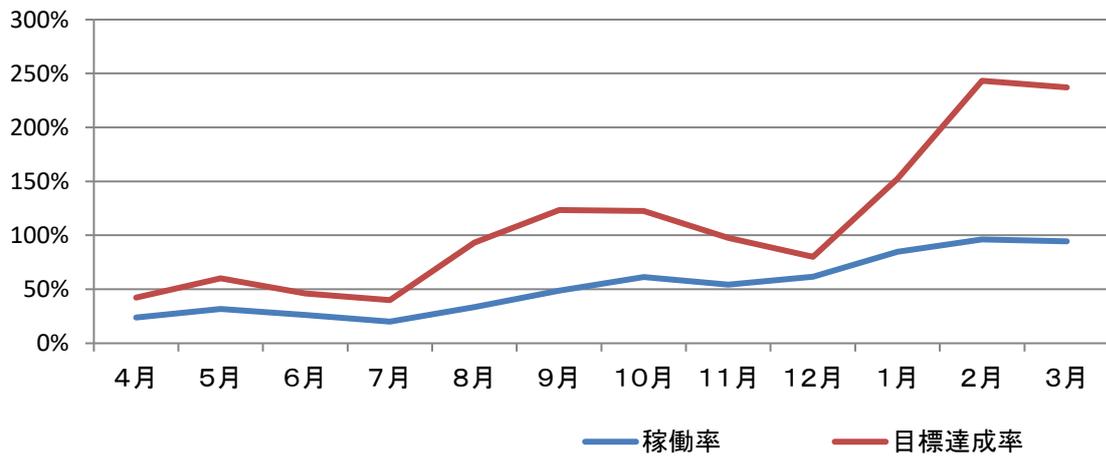
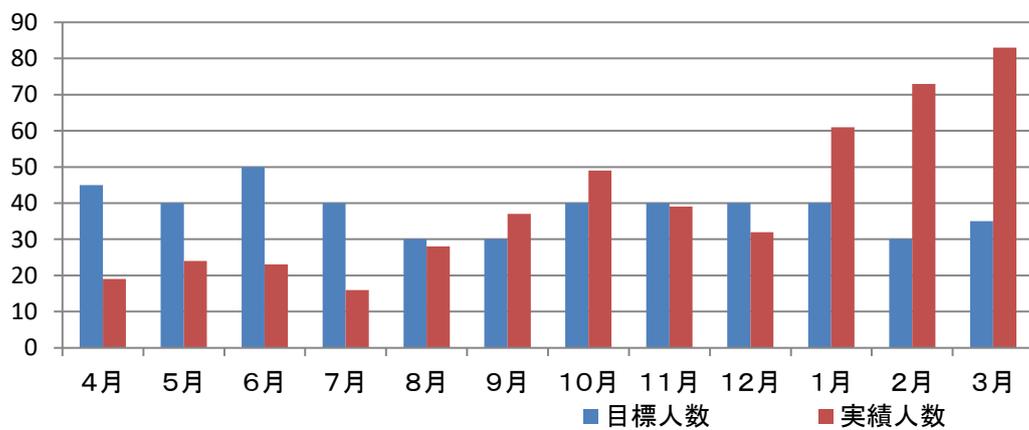
- ・職員の入替わりや職員1名で運営する期間もあったが、令和4年度の目標人数(460人)を達成することができた。
- ・登降園時や連絡ノートを通して保護者の素朴な疑問や悩み等の相談・アドバイスをを行い、安心感や子育てに自信が持てるような関わりを心掛けた。
- ・長時間保護者から離れることによる心身への負担がかかることがあるため、無理なく1日が過ごせるよう配慮して関わった。(普段は家庭で保育されているため)
- ・就労で利用している方に対し、リフレッシュでも利用可能であると声を掛け、育児と仕事の両立による負担が軽減できるように配慮した。

反省

- ・一時保育と子育て支援センターの職員が同じであったため、両方の利用者に声を掛けて気兼ねなく利用してもらえるよう工夫した。
- ・牛乳アレルギーのある児に牛乳を与えてしまったことがあったので、改めて職員間で対応について話し合い、間違えのないよう声を掛け合いながら保育を行った。
- ・職員1名での運営期間中、利用者へ迷惑が掛からないように病後児担当職員と連携をとることができた。

一時保育事業年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	45	40	50	40	30	30	40	40	40	40	30	35	460
稼働日数(日)	20	19	22	20	21	19	20	18	13	18	19	22	231
定員(人)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
実績人数	19	24	23	16	28	37	49	39	32	61	73	83	484
稼働率	24%	32%	26%	20%	33%	49%	61%	54%	62%	85%	96%	94%	52%
目標達成率	42%	60%	46%	40%	93%	123%	123%	98%	80%	153%	243%	237%	105%



～病後児保育～

実績報告

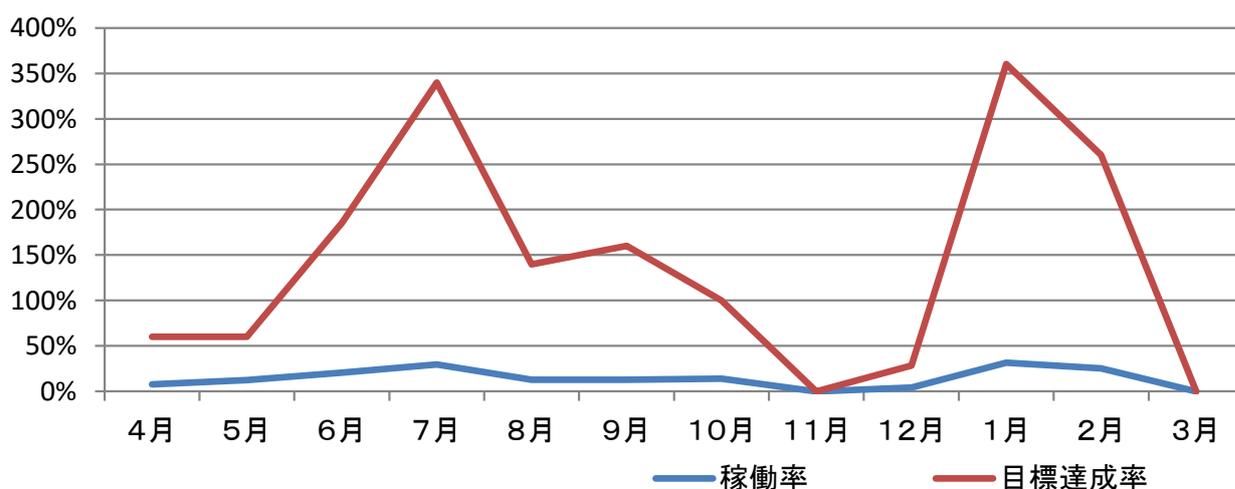
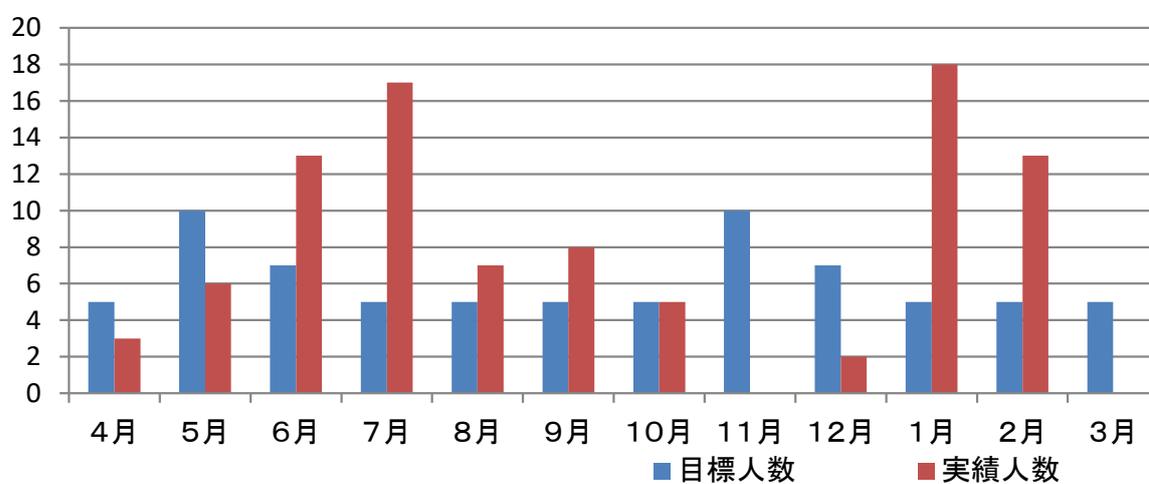
- 食事時パーテーション使用・午睡時ソーシャルディスタンスの確保・換気・玩具などの消毒等、新型コロナウイルス感染症等の感染予防対策の徹底。
- 送迎時や連絡帳で個々の体調の情報共有を保護者と行い、個々の体調や症状、ペースに合わせ衣・食・睡眠等の工夫をした。また、利用者のいない子育て支援センターで遊んだり普段行く機会のない園舎の周りを散歩したりして気分転換を図るとともに、家庭的な雰囲気ですぐに過ごせるよう心がけた。
- 咳や鼻水がみられる時などには加湿器を使用したり、午睡時に上半身を高くしたりして症状による苦痛の軽減を図った。また、保護者への症状に合わせたアドバイス等を行なった。
- 病後児利用時の不安を少しでも軽減できるように、積極的にクラスに入り普段から子どもたちと触れ合う機会を作り、身近な人という認識を持ってもらう(＝慣れてもらう)ように配慮した。
- 利用者が少しでも増えるように、卒園児や園外児の病後児利用者を対象に次年度用登録票を配布(郵送)した。

反省

- ・コロナ前と比較すると利用者数はかなり減少したが、昨年度よりも16名増加し(2年連続の増加)、目標人数(74名)を達成した。100名までには数名足りなかったが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染対策の緩和等により来年度以降は病後児利用者の増加が予測される。
- ・病後児を利用する際に安心して過ごせるように、来年度も引き続き、普段の子どもたちとの触れ合う機会をできるだけ多く持つよう工夫していきたい。

病後児保育事業年間稼働計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
目標人数	5	10	7	5	5	5	5	10	7	5	5	5	74
稼働日数(日)	13	16	21	19	18	21	12	16	15	19	17	19	206
定員(人)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
実績人数	3	6	13	17	7	8	5	0	2	18	13	0	92
稼働率	8%	13%	21%	30%	13%	13%	14%	0%	4%	32%	25%	0%	15%
目標達成率	60%	60%	186%	340%	140%	160%	100%	0%	29%	360%	260%	0%	124%



事業方針

- ・日々提供している給食を基に季節、食材、マナー等の日常的食育活動を充実させていく
- ・食に関する体験を実施し、楽しさや興味を引き出す
- ・家庭、担任職員と連携し、乳幼児期で養うと良いとされる食生活習慣を定着出来るよう、サポートする

事業目標

- ・年齢別また、特に乳児は個々の成長や発達に合わせて子どもが自発的に食への興味や関心が持てるような働きかけを行う
- ・和食の良さについて知ってもらう
- ・感染症対策を行いながら可能な限りでの食育活動を計画し、実施する

実績報告

1. 給食管理については、月に1度の給食会議を通して各年齢別の情報交換、相談を行った。行事食、季節に応じた食品の選定、また偏食児の対応を可能な限り留意した。
2. 給食栄養量を満たすことを目的に計画的に献立作成をし、栄養計算と年齢別給与に努め、さらに毎回園児の残食調査を実施し、嗜好や盛り付けを研究しながら残食防止を図った。
3. 栄養指導については成長曲線を著しく下回っている児童に対し、看護師、担任と連携しながら助言を行った。また、3歳児で定期的を受診を行っている子で保護者の希望により、午前中、牛乳と捕食を提供。
4. 給食担当者の健康管理として、検便、毎日の健康チェックを徹底させると共に、食品の取り扱い、施設調理器具の消毒等の衛生に万全を期し『食中毒感染症』の発生防止に努めた。
5. 食育については、感染予防対策に留意しながら、可能な限り食材に触れる機会を作り、野外クッキングを行うなど臨機応変に対応しながら行った。
6. 和食の良さを知ってもらうため、旬の食材を使用し、一汁三菜を取り入れた。

反省

1. 今年度はアレルギー等の誤飲、誤食事故は0件。給食職員だけではなく、クラス担任のダブルチェックにより防げていたこともあった。令和5年度は給食室職員間でもダブルチェックを行っていく。
2. 和食の良さを知ってもらう試みとして、一汁三菜献立を取り入れたが、野菜を使用した副菜が増えたことにより、残債も多くなった。令和5年度では、残債を減らしていくことを優先し、様子を見ながら、改めて一汁三菜を取り入れていきたい。
4. 昨年度はコロナ禍のため、黙食と喫食時間を短く設定したが故に、幼児組は黙食の習慣が身についたが、偏食や時間をかけて食事する園児は食べきれないことが例年より多かった。今年度は子ども達が好きなデザートを主とし新しい食器でのおかわり提供をしたところ、おかわりがしたい気持ちもあり残債を減らすことが出来た。
5. コロナ禍ではあったが、感染症に留意しながらクッキング等の食育活動を行うことができた。

活動方針

- ・人事考課、個人目標シートに基づきながら各職員が働きやすい環境作りについて話し合う機会を設定し、実践していく
- ・人材採用に向けての計画

年間目標

- ・コロナ禍での働き方改善の考案、実施
- ・人件費を考慮した人材配置

執行報告

① 求人関係

- ・コロナ禍の関係で就活フェアなどの参加が無かったため、各学校に就活用の書類を郵送した。郵送での求人

活動のため、書類に不備が無いよう、チェックリストの作成とどの学校にどの求人募集要項をいつ送ったかが分かるように書式を作成。また、各学校の求人募集要項の書式に合わせてPCで入力、手書きをし、学校専用の求人募集要項がない場合用の自園の求人募集要項の見直しやパンフレットを作成。

- ・園見学や就職希望者の学生からの問い合わせに対しての応答、案内面談日時の設定
- ・採用試験の結果郵送。・新入職員向けオリエンテーションの計画、実施。
- ・採用面接の際は、客観的な面接が出来る様、様々な角度から見られるような採点方式を取り入れるための書式を作成した。

② 働き方改革について

- ・新入職員向けに入職1ヶ月、3ヶ月、半年毎に面談を実施するため、メンターやリーダー職員と新入職員からの聞き取りを行った。良い点と改善点など新入職員に面談にて伝達。

③ 人事考課表について

職員の質の向上、適正な配置(キャリアアップを含む)を目標とした人事考課表の書類管理

④ 人員配置について

- ・新規雇用は以下の通り。
(正職3名、派遣1名)
- ・次年度雇用は以下の通り。
(新卒者雇用1名、常勤パート職員1名、正職者1名)
- ・年度退職、人事異動は以下の通り
(正職1名、パート2名、恵光園異動1名、派遣1名)
- ・年度途中退職者は以下の通り。
(正職1名、パート1名)

反省

・今年度は、家族の介護や自身の体調不良者による急な退職者が多かった。また、入園時には医師の診断が無かった児が、年度途中で障がいがあると診断が下り、加配が必要になった等の理由で人員不足を招いてしまった。家族の介護や急な加配は、致し方ない理由となるが、退職や退職理由が就労による腰痛、職場の人間関係による心理的な事もあった。退職前に事前に相談が出来るような環境作りを進めていきたい。

・新卒者採用活動に関しては、令和5年度からは育児休暇中の職員が4名復帰することも事前に分っていたので、積極的には行わなかった。それ故に1名のみの採用となったが、来年度以降は確実に採用していかないといけない状況になることを予測し、学校訪問などを取り入れていく予定。

地域交流推進執行報告

活動方針

社会福祉法人としての位置づけを職員間で理解し、地域交流に関する意識を高める

年間目標

- ・社会福祉法人としての位置づけを職員間で理解する
- ・みどりが丘保育園の特徴を地域に知らせることで、より開けた保育園を目指す

執行報告

- ・HPの充実に向け、園見学に来た保護者向けのアンケートを作成した。
- ・求人向けのHP用に新卒の保育士、転職経験のある保育士にアンケートを行った。
- ・HPに記載すること、内容を整理した。
- ・コロナ禍で園行事と地域の交流は難しく行えなかった。
- ・保護者に家庭でいらなくなった玩具やベビー用品の寄付をお願いした。
- ・寄付で集まったものを年齢別に振り分け、消毒を行い、絵本等はブックで補強した。
- ・寄付でいただいたものを使用している様子を保護者が見やすいように掲示した。
- ・芋畑の草取りの実施。土曜日ではなく平日(主に金曜日)の夕方に行った。
- ・地域で行っているイベントがコロナで中止になり、行えなかった。

反省

- ・昨年に引き続きコロナ禍においての活動となった。コロナ禍で地域のイベントが中止になり交流、参加する機会がなかった。
- ・散歩の際に関わった近隣の園や地域の方と挨拶を交わすなど、日常での交流はできた。
- ・家庭からの寄付や、夏祭りでは家庭で作ってもらった魚の手作りおもちゃなど間接的に交流できたと思う。
- ・夏祭りを通して内山農園とも交流ができて良かった。

環境衛生執行報告

活動方針

① 防災

- 有事の際に全ての職員が適切な対応をとる事で園児の安全を確保する。
- 有事に備えた訓練計画を立て災害の恐ろしさや訓練の大切さを学ぶ。

② 環境衛生

- 衛生的かつ安全に保育園生活を送れるように園全体の環境を改善する。

年間目標

① 防災

- 命を守る事の重要性とその方法、連携を職員全体で話し合い共通理解を深める。
- 園児自身が安全の為に訓練を理解し自ら進んで参加出来るようにする。

② 環境衛生

- 各担当分野がそれぞれの役割を果たし安心安全に過ごせるように園全体の環境衛生に務める。

執行報告

① 防災

- ・月に一度、避難訓練の実施
- ・引き渡し訓練実施
- ・月に一度、避難リュックの中身の点検の実施

- ・避難食の定期的なチェック
- ・日案や貼り紙の作成
- ・時間外(朝想定)の実施
- ・また、棚の上の整理の呼び掛け
- ・防災頭巾の貸し出しの起案書の提出。来年度のつばみ貸し出し分の防災頭巾の発注
- ・消防立ち入りの中止
- ・各クラスに防災訓練の見直しや気になる事をアンケート実施
- ・避難具の見直し、足りない物を購入
- ・さすまた購入

② 環境衛生

(園舎内)

- ・遊戯室片づけ
- ・更衣室環境整備
- ・各倉庫の整理整頓、片づけの呼びかけ

(絵本係り)

- ・絵本棚の整理
- ・絵本の補修
- ・絵本リストの作成

(園舎外)

- ・園外周の環境整備(園舎外壁、駐車場、危険箇所等)
- ・園庭の環境整備(園庭、遊具、危険箇所等)
- ・遊具、砂場の消毒(月1回)、修繕が必要な際は都度修繕依頼
- ・環境倉庫、外倉庫の点検、整理
- ・その他環境
- ・延長保育玩具を仲良しの部屋に移動
- ・椅子の管理、机の管理(起案書)
- ・ゴミ倉庫、散歩車車庫にサーチライト設置

反省

- ・今回9月から担当となった。会議は以前のように防災・環境月一回で行えた。

引継ぎなどがない状態だったが、今までの流れを確認しながら担当者と話し合い、連携ができた。議事録を使用しながら周知することができた。

- ・環境としては話し合いを行うことで各自が行っている事は把握できたが、各自でつけているチェック表などは各自が所持していた事もあり確認が甘くなっている部分があるのでチェック表の管理の仕方を考えていく。

障害児保育・療育執行報告

活動方針

- ・子どもたち一人ひとりに対して同等に最善の利益を保証するために、
「生きる権利」「守られる権利」「育つ権利」「参加する権利」の観点から、個々に生じた課題に関して積極的に向き合っていく。
- ・「子どもたちの育ちを支える力」を向上させるための知識を身に付け、各専門機関と密な連携を図りながらそれぞれにあった保護者支援を行っていく。

年間目標

インクルーシブ保育への理解を深め、園全体で取り組めるように発信していく。

執行報告

- ・教育支援ネットに参加し、情報交換を行った。
- ・市内の養護学校のアドバイザーに来園する機会を設定、気になる子どもの様子を見てもらい意見交換をした。
- ・保健師が来園した際にクラス担任を交えて情報交換をし、子どもの様子を見てもらった。
- ・気になる子について各クラスに月に1回書類を配り、記入してもらった。気になる子の様子や対応・変化について話し、園全体での共通理解を図った。
- ・月に1度会議を設け、情報交換や参考となる書類の配布を行った。

- ・園内研修の取り組みとして療育専門の講師とオンライン研修開催。
- ・市の療育機関のパンフレットを用意したり、どんな相談を受けているのかをまとめてたりし保護者が見られるようにした。
- ・進級に向けて子ども達の伝達事項の共通理解を図った。

反省

月に1回の会議にて各クラスでの子どもの様子や対応の仕方、困っていることなど全体で考えて一人ひとりに合った保育を模索することができた。

レジェや参考になるものを各クラスに配布したが中々全体の共通理解や会議での伝達事項などがうまくいかない部分があったので工夫が必要だった。

療育機関には連絡し情報の共有や意見交換など積極的に行い、対象児や保護者への対応もスムーズになった。今後も定期的な情報交換をしていきたい。

事故虐待防止対策執行報告

- ・**事故発生防止** : 子どもの心身の安全な保育環境を確保する。
(危険箇所を発見し、環境の見直しをすることで安全な環境を提供する。)
- ・**児童虐待防止** : 子どもの最善の利益を守る。
(日々の保育を振り返り、園内の子どもの利益を守る。)
(各家庭の状況についての共通理解を図る。)

年間目標

- ・月に一度のレジェメの作成をし、会議やレジェメを通し、園での事故・虐待防止を高めていく。また事故・虐待防止についての改善の考案、実施
- ・気になる保護者についての強化
- ・ヒヤリハットの浸透、ヒヤリハットの検証の強化

執行報告

- 4月 ・会議にて園外の危険箇所の洗い出しを行う。
 - ・乳児の靴下入れ、帽子入れをアレルギー児対応の物にする。
 - ・散歩用の旗をおろす。
- 5月 ・園外の危険箇所のマニュアルを作成。配布。
 - ・事例①
- 6月 ・虫シールやリングについて検討。
 - ・ピンが危険な為、ネジでとめられるように物品を発注。設置。
 - ・虫コナーズの発注。配布。

- 7月 ・事例②
 - ・テラスの角カバー付け(ちゅうりっぷ前)
- 8月 ・生活リズムアンケートの実施
- 9月 ・駐輪場の設置
 - ・貼り紙などの作成
 - ・事例③
- 10月 ・生活リズムアンケートの実施
- 11月 ・生活リズムアンケートの集計結果の配布
 - ・事例④
- 1月 ・ヒヤリハットの検証

- 2月 ・療育のストレスアンケート結果の共有
- 3月 ・散歩届けを新しくする。

反省

年間計画を元に、事故虐待について、振り返りや共通理解をはかることができた。今年は事例についても多く取り入れ、実践を想定した話し合いなどを各クラスで行うことができた。今年度は世間的に保育士のニュースも多かったので、保育者の虐待に対する意識も高まるように今後も行っていきたい。そういった意味では、人権擁護のセルフチェックリストを行えたのは良かった。来年度も取り入れていくべきだと感じる。

乳幼児環境構成執行報告

活動方針

・園庭や保育室に必要な環境を充実させる。

年間目標

・保育における環境構成を充実させ、子どもたちの発達に合わせた環境構成や子どもたちの「やりたい」が発揮される環境を作る。
 ・年齢に合わせた行事の在り方を伝え、伝統に触れる。

執行報告

・ホール 巧技台の安全点検。巧技台組み合わせ表掲示。
 ・各イベント由来等掲示し道具準備。

反省

・園庭の環境を整えることができなかった。園舎外の環境職員と話し合い取り組めればよかった。
 ・幼児棟倉庫に巧技台の組み合わせレパートリーを掲示したことで、組み合わせやすいという声があり、各年齢が楽しめるパターンを今後も掲示していければよい。
 ・各イベント行事の時には廊下に由来等掲示した。幼児組は各クラス製作物も掲示してことで雰囲気が出て季節感を感じられた。

保育実践マネジメント執行報告

活動方針

・一人ひとりの職員が主体的に考え、学ぶ中でそれぞれの特性を活かした保育を行う。

年間目標

・一人ひとりの職員の資質向上及び職員全体の専門性の向上

執行報告

- ◆職員が主体的に園内研修・外部研修・勉強会等に参加できるよう計画し、開催する。
(山武市会研修、園内研修一年10回程度等)
- ◆自主勉強会を開催し、キャリアアップ研修で得た知識を職員間で共有できるようにする。
(乳児保育、幼児保育、障害児保育、食育アレルギー対応、保健衛生、安全対策、保護者支援、子育て支援、マネジメント等)
- ◆各分野別リーダーと定期的に意見交換を行い、指導を行う。
- ◆年間カリキュラムの見直しや改定保育所保育指針に合わせた保育内容の確認・指導等を行う。
- ◆マネジメントを行い、職員の心身の健康や管理を行う。
 - ・職員のシフト管理、配置、朝礼
 - ・新規採用者オリエンテーション(3月)
 - ・実習生オリエンテーション(6月から随時)
 - ・ICT化を促進させる。
- ◆健康増進活動
 - ・からだの学校・・・5歳児中心に活動した。
理学療法士が園を2回(6月1月)訪問し、握力と足力を測定した。
健康に保つ為の運動や活動等を子どもや保育士等に伝え、指導実践し情報発信した。
- ◆保護者支援
 - ・クラス便り、クラスでの活動を伝える方法(ドキュメンテーション)等への指導や助言を行い、保育内容や子どもの姿を保護者に知ってもらえるよう努めた。
- ◆遊びの環境について
 - ・物的・人的・自然・社会について各部署との連携を取りながら振り返り、改善を行う。

反省

- ・園内研修で園の理念や保育実践について学ぶことができたが、1回で終わりではなく今後も繰り返していくことが大事である。またこのような機会があると良い。
- ・発達記録書式の見直しを皆に投げかけ、各部署より案をいただいた。また検討段階であるので、他の書類も見直せるように取り組んでいく。
- ・シフト作成では、年度途中で担当が変更になったが、協力しながら当番を組んでいった。又、保育士バンクを導入しシフト作成機能を利用するようになった。PCのエクセルで作成し重複してしまう部分もあるので1本化できるようにするのが課題だ。
- ・健康増進活動では、5歳児は年間通して正しい姿勢と健康な体について意識して普段の生活や遊びに取り組んだ。なかなか身に着けることは難しいが、子ども達なりに考えるようになった事は良かった。活動をクラスだよりに掲載し、年度終わりに保護者や職員向けに1年間の取り組みを資料にまとめ保護者に配布し、職員には閲覧できるようにした。もっと、職員には小まめに取り組みを知らせられたら良かったと思う。
- ・クラス便りについては、クラスでの活動の知らせ方が写真頼りになることもあったので、もっと具体的に記載できるように職員に話をしたり資料を用意したりしていく。

保健衛生マネジメント執行報告

活動方針

- ・自らの体や健康に関心を持てるように、また健康で安全な生活を作り出す力を身につけていけるように、保健教育・指導を計画し実施する。
- ・職員が保健衛生に関する知識を得たり、問題提起できるような指導や働きかけを行う。

年間目標

- ・園児や職員が心身共に健康で安全に過ごせるよう、一人ひとりの発育・発達状態や健康状態を配慮しながら保健衛生活動を行う。
- ・職員の保健衛生に対する意識や知識の向上を図る。

執行報告

- ・月1回の会議や週案会議で感染対策の見直しや問題解決策の検討、情報共有を行なった。
- ・園内での新型コロナ感染症発生時、保健所に連絡し指示を従い濃厚接触者の洗い出し、ママ蓮メール送信（全体・濃厚接触者）、濃厚接触者で検査を受けた人の記録・報告（保健所）、クラスへの指示等の対応を行なった。
- ・感染状況に応じてフッ化物洗口の実施を検討した。
- ・年2回、歯みがき教室の実施（飛沫感染予防対策をとった歯みがき指導を市の歯科衛生士に依頼）
- ・歯科検診、内科健診を年2回実施。健診結果を保護者に知らせ、異常など指摘があった園児に病院受診を勧めた。
- ・子どもたちの健康状態や欠席者の情報、毎日の欠席者人数等をクラス担任と連携をとり、把握・記録・情報共有することで、サーベイランスに活用。また、体調不良児や病欠者の保護者へ積極的に声かけし、状態把握や助言を行なった。
- ・ラジオ体操、年長児の開始のアナウンスの継続。
- ・保護者参加行事時の感染予防対策の検討や見直し、検温・健康チェック票の確認。
- ・全園児の出生時からの身体測定値の入力、及び成長曲線を作成し、それを元に発育異常等の疑いや傾向のある園児に関して担任と情報共有し保護者へ助言。栄養士にも情報共有。
- ・精神的な体調不良による職員の休職や退職がみられたため、厚生労働省監修のストレスチェックや疲労蓄積自己診断チェックを実施し、ITによる診断結果を本人へ通知。「人事担当」や「事故・虐待防止委員会」の職員とも情報共有した。
- ・嘔吐処理セットチェックリストを作成し、各クラスに配布。会議の際にチェックし持ち寄ることで、嘔吐処理セットへの意識づけを試みた。また、会議の際に空気清浄機やエアコン等の点検や清掃の声かけを行い、衛生への意識向上を目指した。

反省

- ・体調不良者の増加がみられた際には、職員をはじめ保護者へメール等で通知するなどして早めの対応を心がけることができた。
- ・「職員のストレスチェック」や「疲労蓄積度自己診断チェック」では、職員の仕事の負担度合や精神的内面の一部ではあるが把握をすることができたので、来年度も引き続き実施していった方が良いと考えられる。また、結果をもとに人事担当や事故防止・虐待防止委員会の職員と連携し、必要な場合は対応策を検討していきたいと思う。
- ・コロナ禍となり3年が経過し、感染対策に関して職員の意識の向上がみられたと感じる。が、その反面新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う感染対策の緩和等の影響により、意識の変化（低下）が予測される。コロナ禍の常時感染対策ではなく、体調不良児の増加傾向時の感染予防対策や感染症流行時の感染対策といったメリハリのある感染対策を職員自ら実施していけるような指導や意識づけが今後の課題。

- ・感染症罹患後や体調不良後の登園の目安に関して、全職員が正しく把握できていなかったため、保護者に迷惑をかけてしまったことがあったので、全職員で再確認し保護者への対応を正しく統一していく必要がある。
- ・クラス担任からの保健指導の依頼に応えられなかったので、来年度はクラス担任としっかり話しをする機会を持ち、実施できるようにしていきたいと思う。また、今年度会議では「いのちの安全教育」(性教育)について触れたが、来年度は園児にも進めていきたいと思う。

総合評価

園目標に掲げる、保育理念、保育指針の理解について、園外研修・園内研修などの教育・育成環境の場をいかし意識改革・資質向上を図った。園内研修では、年間を通して自分たちの保育を保育理念に紐づけながら振り返りを行い、意識して行えた部分や改善が必要な部分を見える化しディスカッションを交えチームで確認・修正を図り、全体の底上げにつなげた。次年度は保育理念を理解した上での保育を常に念頭に置き、自らが考えて行動できるチームを構築していきたい。

年齢に応じた保育の理解とそれに伴った保育技術を養っていくことが課題とされていたが、子ども達と関わるにはまず子ども達を知ることを大前提に、子どもや保護者とのコミュニケーションを図り、得た情報は職員間で共有することを意識した。限られた時間の中で、専門知識の向上、保育技術の向上、情報交換、これらを委員会や会議を有効活用することでさらなる向上を求めていきたい。

保育園全体がより良い保育に向けて進むにはチームとしての質の違いで大きな差が現れる。組織からなる教育環境、情報交換・伝達環境、コミュニケーション環境、これらの環境整備を整えていかなければならない。今年度は、日ごろの業務に追われ、基本的な挨拶や報告が疎かになる場面も見られた。誰しもが働きやすい環境であることで全体の空気間を良く、仕事へのさらなる向上心を生み、個々のレベルアップが期待できる。そうした働きかけを次年度強化しチーム力向上を目指していきたい。

年度の終盤に向かうにつれコロナ終息の流れが加速した。それに伴い感染症対策をどのラインまで引き下げていくか検討を重ねた。切り替わりの難しい時期でもあったが、保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら子ども達にも無理が生じないよう配慮しつつ対応していった。次年度も情報収集を怠らず、その状況にあった、適切な感染症対策を講じていくため自治体とも密な連携を図っていく。

令和4年度は、業務改善・効率化を図るねらいとしてICT導入を試みた。勤怠管理として職員出退勤打刻システムにより職員の出退勤時間・残業管理・有休管理・遅刻早退管理・勤務表のデータ管理が一本化され、給与計算の効率化が見込まれている。園児管理として、園児の登降園打刻システムにより、従来の手書き管理からデータ管理に移行。園児個人のデータに保護者情報(メールアドレス等)を紐づけ、お便りや緊急連絡など、メールでの送信(個別・クラス別・全体)が可能。用紙代・印刷代の削減とともに、保護者にとっては、お便りの紛失防止、確認したいときに手軽に確認ができる、かさばらないといったメリットもある。配信したメールの内容は同時に職員にも送信しているため、内容は共有されている。保護者からの質問に、担任ではないからわからないということが無いようにする。

また、園児の登降園時間をデータ管理することで、延長保育料や時間外保育料の自動計算が行われ、集金業務の効率化が図れている。

課題点としては、データ管理を行う上で、個人の状況データ設定ミスや打刻忘れ、メールの文字入力ミスなど、ヒューマンエラーが目立ち、保護者に不信感を与える場面が多くみられた。職員間のマニュアル確認・ルールを徹底し、機械やデータだけに頼りっぱなしになるのではなく、自分たちの業務を効率化するためにICTで補っていくという認識を忘れずに、うまく機能させなければならない。

保育園における自己点検・自己評価

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育目標について	(1) 保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				
	(2) 目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	○				
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			
	(4) 目標は、前年度の反省を生かしているか。	○				
	(5) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		○			
保育について	(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				
	(2) 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。		○			
	(3) 環境の構成を意識した保育や課程を常に工夫しているか。	○				
	(4) 素材・用具を適切に活用しているか。		○			
	(5) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。		○			
日時程	(1) 1日の流れ（デイリープログラム等）は、現行でよいか。		○			
行事について	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。		○			・出来る範囲で努力はしてきたが、園児や保護者の要望に応えられない場面もあり。 ・感染症対策を講じるうえで、保護者の希望を全て取り入れられたわけではない。
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。			○		
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○			
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。		○			
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。			○		

※A、B、C、Dの4段階評価。

A：たいへんよい

B：よい

C：一部検討を要する

D：改善を要す

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営 ・ 組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか		○			
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○			
		(3) 職員の配置は適材・適所か。		○			
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。		○			
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか			○		・委員会や会議の内容は定期的に見直しが必要。次年度へ向け反省を活かす。
		(2) 職員それぞれが全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか			○		・昨年度の反省を活かし、主任、リーダーを通して個々の役割を理解させるよう努める。
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。			○		・適切と思える内容にしていかなければならない。
	年齢別・クラス経営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	○				
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	○				
		(3) 年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。		○			
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているのか。		○			
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。		○			
		(6) 評価、資料（諸記録）を集積しているか。		○			
	保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	○				
(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。		○					
(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。			○				
(4) 乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会関係機関等と連携を図っているか。				○		・地域社会との連携は難しい状況。まずは自助の強化体制を図る。	
研究・研修	園内研究・研修	(1) 研修主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。	○				
		(2) 園内研修の計画・運営は適切か。	○				
		(3) 研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。		○			
		(4) 研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。		○			
	園外研修	(1) 各種研究会、研修会、講習会への参加姿勢の充実を図っているか。			○		・研修参加の機会が減り、十分に参加できなかった。
		(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。		○			

※A、B、C、Dの4段階評価。 A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
情報について	(1) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○					
	(2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。		○				
	(3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。		○				
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○				
	(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整理保管しているか。		○				
	(3) 不審者等に対応する周到的配慮を行っているか。		○				
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。		○				
出納・経理	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか		○				
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	(1) 他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。		○			<p>・興味関心を引き出すのが、交流が困難な状況。</p> <p>・地域の行事自体が無い状況。しかし、こちらから何かアプローチできることも考えるべき。</p>
		(2) 他施設等の児童と触れ合う中で、乳幼児が充実感を味わえる配慮や援助・支援を行っているか。		○			
		(3) 指導者間で、合同研修等にて互いの保育教育に対する共通理解を図っているか。		○			
		(4) 参観や保育・授業に参加するなどして、幼稚園、小学校の教育を理解しているか。		○			
		(5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。		○			
	地域交流・連携	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。		○			
		(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。		○			
		(3) (乳) 幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。				○	
	(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。				○		

※A、B、C、Dの4段階評価。 A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

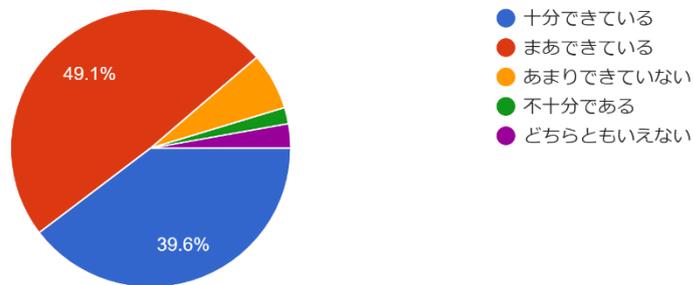
項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
情報について	子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭や中庭保育室を解放しているか。		○			
		(2) 地域の子ども、あるいは親子と一緒に遊ぶことができる場の設定を行っているか。		○			
		(3) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。		○			
		(4) 職員による育児に関わる「子育て相談」は充実しているか。		○			
		(5) 医療機関、児相等の専門機関と連携を図り保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○			
	情報発信	(1) 園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	○				
		(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。			○		・地域の公園を利用し情報発信の場を設けたが十分ではなかった。
	外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。				○	・第三者評価の導入に至っていないが今後検討。
(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。					○	・感染症対策で多くの協力を得ている。ご理解を求める場面が多く、不満も膨らむ一方。	

※A、B、C、Dの4段階評価。 A:たいへんよい B:よい C:一部検討を要する D:改善を要する

園の運営に関する項目(全 10 問)

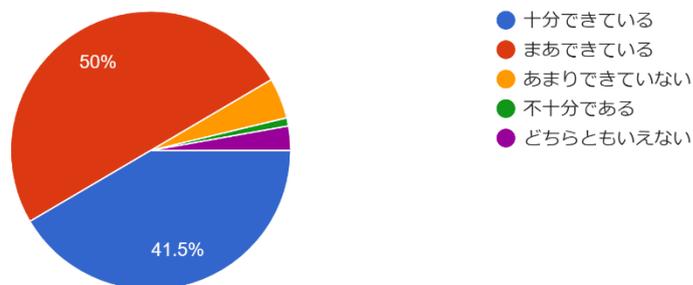
I-1) 園の保育理念、保育方針、及び保育目標について説明は十分にされていますか。

106 件の回答



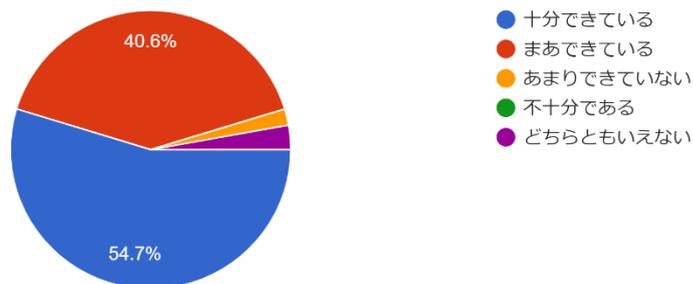
I-2) 園は、保護者と連絡の手段をとり意思の疎通が図れている。

106 件の回答



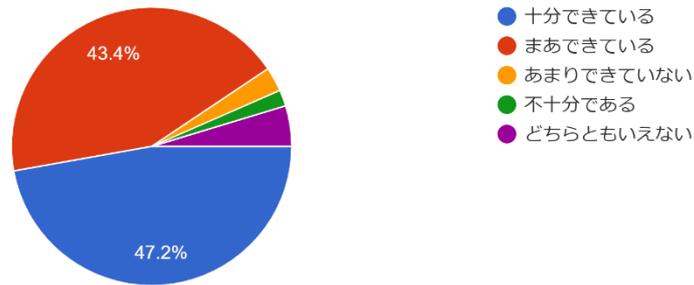
I-3) 子ども達の様子は、行事やおたよりを通して知ることができている。

106 件の回答



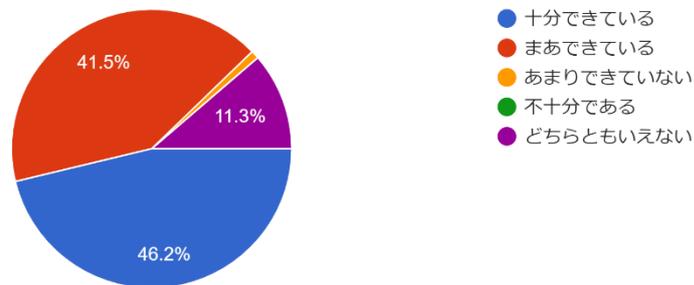
I-4) ケガや問題が起きた時に、丁寧にわかりやすく状況を伝えているか。

106 件の回答



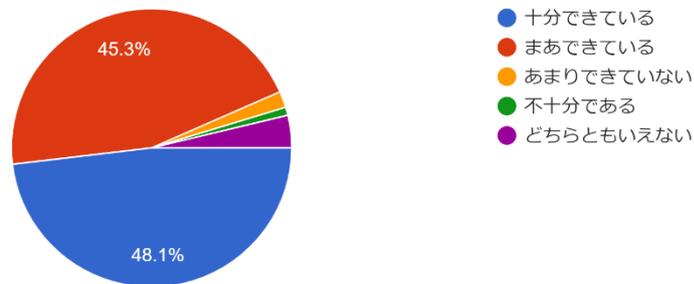
I-5) 子ども同士のかかわりを持てるような働きかけがみられた。

106 件の回答



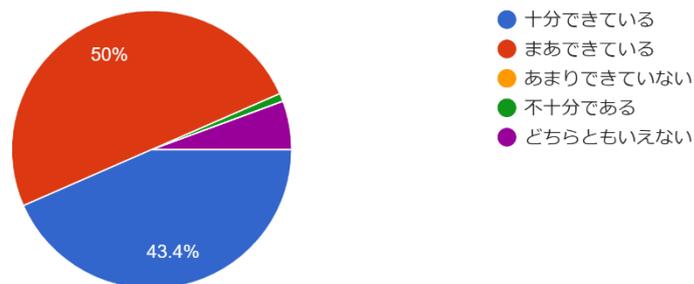
I-6) 子どもの発達に応じた保育環境に努めている。

106 件の回答

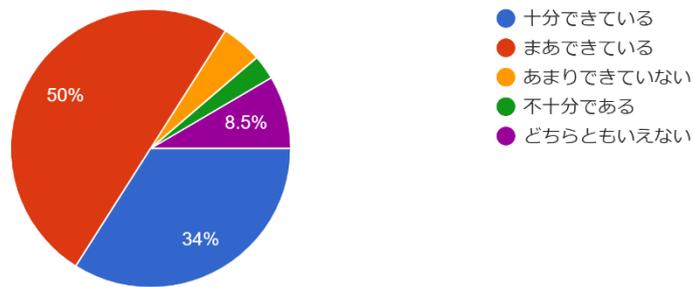


I-7) 園庭遊具や建物内は、子どもに合わせた安全対策が施されている。

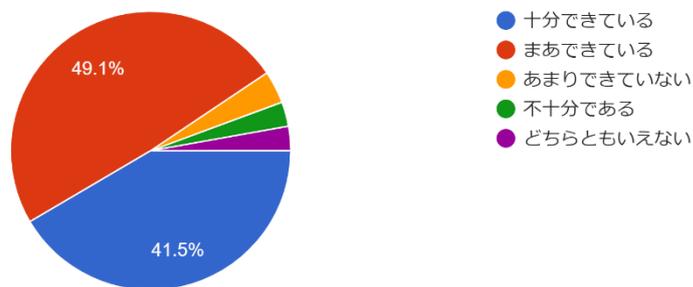
106 件の回答



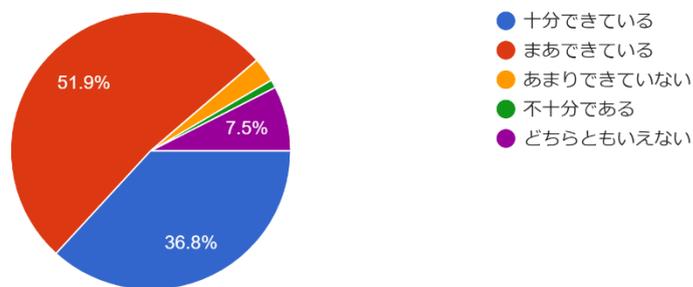
I-8) 園の子育て支援（相談窓口、育児関連施設の紹介など）は、充実している。
106 件の回答



I-9) 園の感染症対策は適切に行われている。
106 件の回答



I-10) 地域にひらけた園として役割を果たしている。
106 件の回答

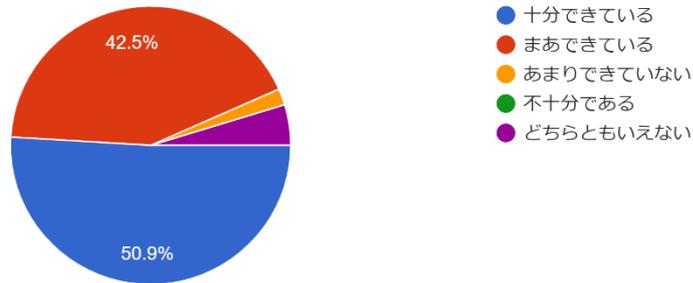


- 十分できている・・・43%
- まあできている・・・47%
- あまりできていない・・・3%
- 不十分である・・・1%
- どちらともいえない・・・6%

職員に関する項目(全7問)

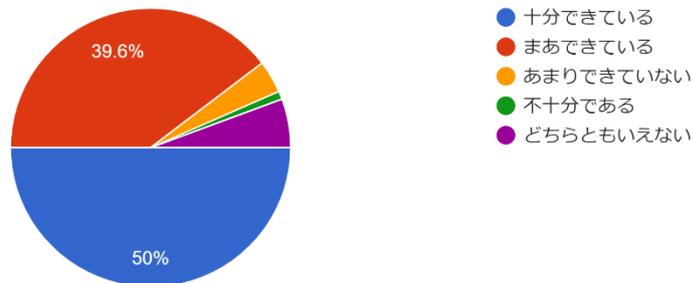
II-1) 職員は、子どもをよく理解し、一人ひとり...格や特性などに配慮しながら関わりを持ってている。

106件の回答



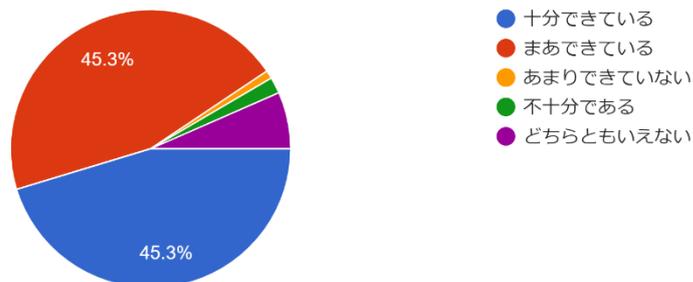
II-2) 職員は、子どもの様子についての連絡や相談に、丁寧に対応している。

106件の回答



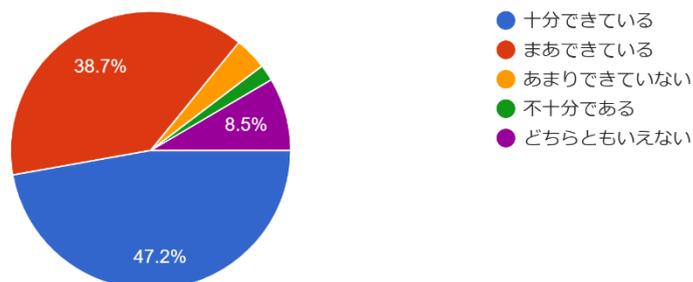
II-3) 職員は、子どもに対する声掛けや関わり方が適切に行われている。

106件の回答

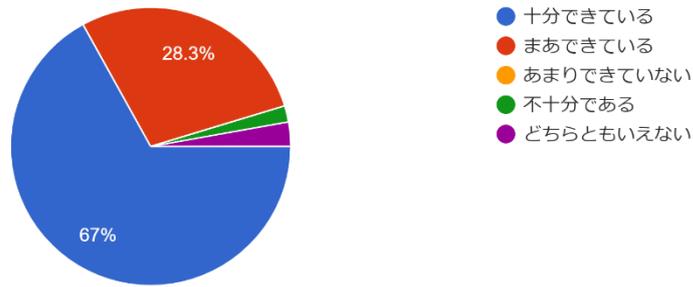


II-4) 職員は、園児や保護者の悩みや問題に対して適切に応じている。

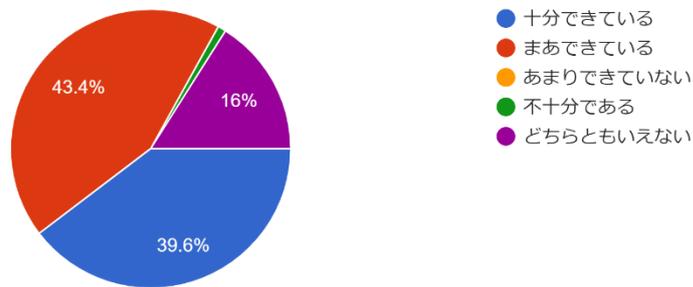
106件の回答



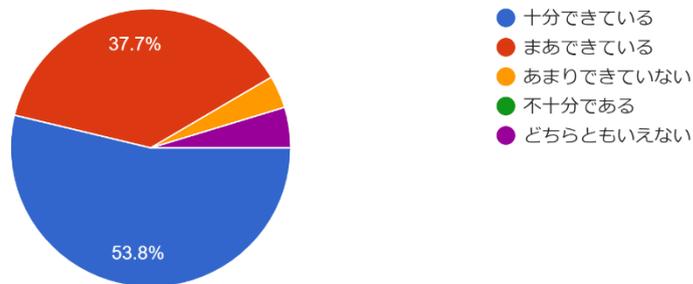
II-5) 職員は、園児や保護者と明るく元気に接し、気持ちの良いコミュニケーションが図れている。
106 件の回答



II-6) 職員の様々な立場に応じて、園の理念に沿った取り組みがみられる。
106 件の回答



II-7) 給食の献立や食育活動について、わかりやすく説明されている。
106 件の回答

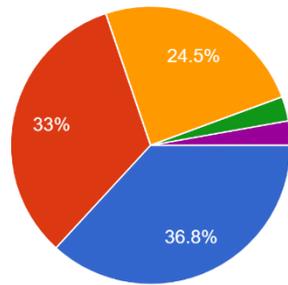


- 十分できている……50%
- まあできている……40%
- あまりできていない…2%
- 不十分である……1%
- どちらともいえない…7%

お子さんに関する項目(全7問)

Ⅲ-1) お子さんは、保育園に行くことを楽しみにしていますか。

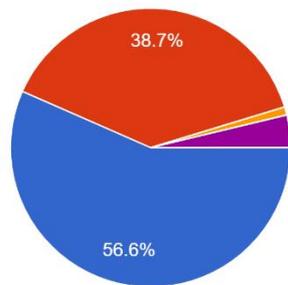
106件の回答



- とても楽しみにしている
- 楽しみにしている
- 行きたくないと思う時もある
- 毎日のように行きたくないと思っている
- どちらともいえない

Ⅲ-2) お子さんは、職員に信頼を寄せている姿がみられますか。

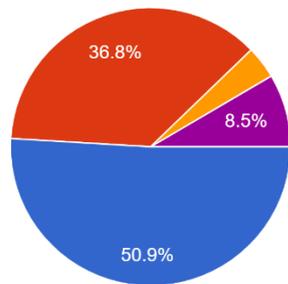
106件の回答



- とてもみられる
- まあみられる
- あまりみられない
- まったくみられない
- どちらともいえない

Ⅲ-3) お子さんは、保育園での出来事をお家で教えてくれますか。

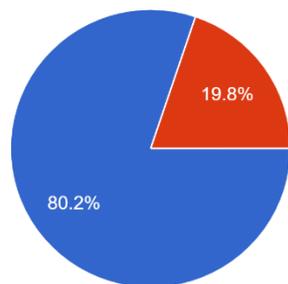
106件の回答



- いつも教えてくれる
- 時々教えてくれる
- あまり教えてくれない
- まったく教えてくれない
- どちらともいえない

Ⅲ-4) 保育園での大人や友達との関わりがお子さんの成長に大きく影響していると感じますか。

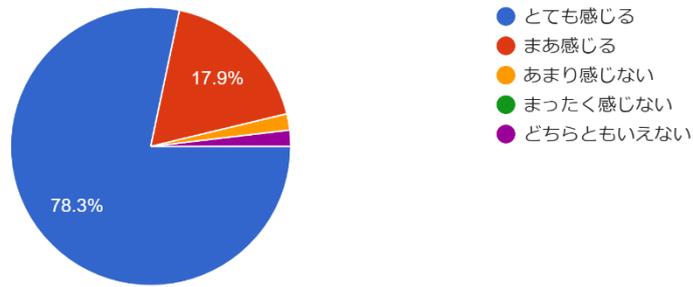
106件の回答



- とても感じる
- まあ感じる
- あまり感じない
- まったく感じない
- どちらともいえない

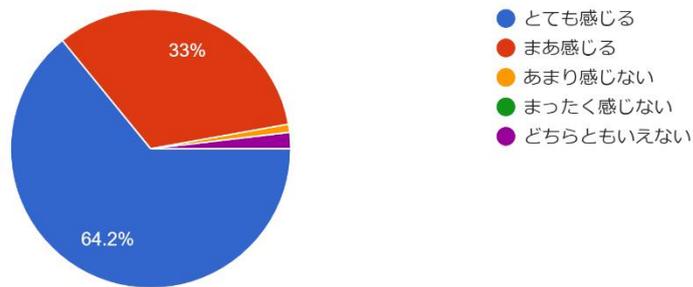
Ⅲ-5) 保育園に通っていることで、お子さんが力強く、たくましく成長していると感じますか。

106 件の回答



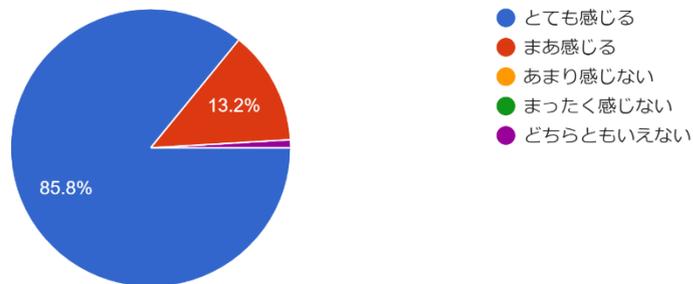
Ⅲ-6) お子さんは、保育園の給食をおいしくいただいていると感じますか。

106 件の回答



Ⅲ-7) お子さんは、保育園の行事やクラスイベントを楽しんでいるように感じますか。

106 件の回答



自由回答

○改善を求めらるご意見(抜粋)

- ・配布物やメールの文章が分かりづらい時がある。誤字脱字も多い。研修などで改善できるのでは。
- ・保護者参加イベントの平日開催が多い。土日が参加しやすい。
- ・男性職員が少ないので防犯面で気になることも。
- ・ホワイトボードでお知らせよりも、お便りやメールを最大限に活用してほしい。
- ・事務的なことで不振に思うことがあった。
- ・ティッシュ等の寄付が突然年2回になった。もちろん寄付は行いますが今後保護者の負担が増えていくのか不安
- ・コロナ禍で行事の準備等大変だと思うが、運動会では雨天時に、別の日に行うと思っていた。自信をもって競技する子ども達には感動したが、できれば広い場所で観たいという気持ちが正直あった。
- ・行事やイベントがなかなか参加しづらい状況で子ども達の様子をうかがえる機会があまりなかった。職員とのコミュニケーションも少なく、特に幼児組になるとその日の様子も詳しくは聞けない状況。
- ・年少組からは午睡は希望制にできないか？午睡すると夜なかなか寝ないので。
- ・保育園の理念や方針などの説明をうけた記憶がない。
- ・運動会は大綱アリーナでできないか。
- ・年度途中で退職される職員が多いように感じる。
- ・その日の給食の展示が更新されていない日がある。
- ・持ち物の入れ間違えや返し忘れなどにもう少し真摯に対応してほしい。
- ・お昼寝コット(メッシュ式の簡易ベッド)にしてほしい。
- ・年長組だけでも体操の先生を委託してもいいのでは。
- ・年長組担任を決める際は、保護者にアンケートをとることはできないか。
- ・祝日に行事を行う際に、式典だからということで姉弟の参加を断られた。誰もが他に預かってもらえる環境にあるとは限らない。
- ・職員が園児を叱っている場面に遭遇した時に、感情的な叱り方をしているように見受けられた。
- ・お腹が痛いときに先生に伝えられなかったと聞いた。子どもが何でも話せる環境にあってほしい。
- ・誕生日カードに200円かかってしまうことが悲しかった。手作りでないとお祝いの気持ちが感じられない。
- ・既製品のおやつが多いように感じる。
- ・職員によって質問の回答にばらつきがみられる。

○感謝のお言葉(抜粋)

- ・コロナ禍で大変な中、様々な行事やイベントを企画開催していただき、子どもも私たちも嬉しかったです。
- ・みどりが丘保育園を選んで良かったと思っています。
- ・お忙しい中、いつもご丁寧な対応ありがとうございます。子供も保育園がとても楽しいようです。親として安心して保育をお願いできます。本当にいつもありがとうございます。
- ・先生方やお友達のおかげで楽しく登園できています!! 今年はコロナも落ち着いてきて、保護者が参加できる行事が増えると良いなと思います。
- ・いつも先生方にはお世話になりっぱなしで頭が下がる思いです。子どもの意思を尊重し、丁寧に関わってくださってありがとうございます
- ・いつも様々な工夫をしながら保育をしていただき感謝しています。
- ・いつも楽しい保育をありがとうございます。今後も宜しくお願い致します。
- ・いつも大変お世話になっております。とても信頼できる先生方がいてくださるおかげで、安心して預けることができとても感謝しております。手のかかる子ではありますが、これからもよろしくお願い致します。
- ・先生方友達にも恵まれ、とても楽しい保育園生活を送る事ができました。また、家では食べない嫌いな食べ物も頑張っって食べ、苦手な食べ物が減り好きな食べ物が増えました。3年間お世話になりありがとうございました。
- ・自然に生まれ広い土地、スペースでおおらかに保育して頂き感謝しています。みどりが丘保育園に通園出来て本当に良かったと思います。園長先生をはじめ職員の皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました。
- ・いつも騒がしく動き回ってばかりの息子の相手をしっかりしていただき、とても助かっています。コロナ禍でイベントや行事も今まで通りとはいかないなか色々な工夫をして行なっていただき息子が楽しく保育園に通っています。残り一年宜しく願います。
- ・保育園に入園してから子どもの成長をたくさん感じます。コロナ禍で感染対策等も大変な中でも、子どもたちにあっただ対応をしてくださり、先生方には本当に感謝しています。
- ・子供が楽しめるような遊びや取り組みをしていただき一人一人のことをしっかり見てくれていて安心して保育園に通わせられています。いつもありがとうございます。

【実施期間】 令和5年3月17日(金) ～ 令和5年3月26日(日) 計10日間

【対象者数】 園児174名 135世帯

【質問数】 全25問(自由回答含む)

【回答数】 106件

【回答率】 79%

令和4年度保護者アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

皆様の声を励みに、そして貴重なご意見に対し保育園としてできる事できない事を職員間で精査し、今後のより良い保育につなげていきたいと思っております。

※ 固有名詞もしくは個人が特定されるような文章を除いての記載となります。予めご了承ください。